

令和5年10月25日

尾張旭市長 柴 田 浩 殿

尾張旭市総合計画審議会
会長 伊 藤 雅 一

尾張旭市第六次総合計画（案）について（答申）

令和5年3月23日付け4企第68号で諮問のありました尾張旭市第六次総合計画（案）について、本審議会において慎重に調査審議を重ねた結果、今後10年間のまちづくりの指針として概ね適当であるとの結論に達しましたので、答申します。下記の事項に留意し、まちづくりを進めてください。

記

- 1 市民、各種団体、事業者等に分かりやすく、地域のつながりを強めながら、人々の暮らしを支える舞台を創ることができるよう、計画を策定してください。
- 2 調査審議の過程で各委員から出された意見や提案の趣旨を、可能な限り尊重し、適切に対応してください。
- 3 効果的な情報発信を行い、本計画と本市の魅力を市内外の多くの人に知っていただき、理解されるよう努めてください。
- 4 めざすまちの未来像や各施策のめざす姿を実現するため、まちづくりの基本方針に則して、分野横断的に各施策を推進し、効果的・効率的な行政経営に努めてください。
- 5 今後も、行政は、市民、各種団体、事業者等と連携し、「尾張旭らしさ」をいかし、めざすまちの未来像「幸せつむぐ 笑顔あふれる 尾張旭」の実現に向けて、本計画を着実に推進してください。

添付資料

総合計画審議会委員の意見や提案

総合計画審議会委員の意見や提案

1 計画策定の背景などに関するもの

番号	項目	意見や提案
1	計画策定にあたって	「計画策定の視点」について、全てをバックカスティングで検討するのではなく、柔軟にフォアカスティングも混ぜて策定することが良い。
2	計画策定の背景	財政などの状況を考えながらバランスをとって計画を策定していく必要がある。
3	計画策定の背景	尾張旭市での暮らしについて、愛着や誇りのグラフを見ると中学生や高齢者などの日中市内にいる方の得点が高い点が興味深い。シビックプライドを高くするために、市内での生活時間を長くするための工夫というものも考えられる。

2 基本構想に関するもの

番号	項目	意見や提案
1	全体	この総合計画が描く「まち」や「生活」のイメージを伝えることがとても難しい。イメージボードや動画を活用すると良いのではないか。
2	全体	「人」にフォーカスして計画を策定していることが評価できる。
3	全体	ワークショップやアンケートで出てきた尾張旭市の魅力に関することや、各委員から指摘のあったことを計画に反映できると良い。
4	全体	総合計画の方向性を「もの」から「人」に切り替えるのであれば、庁内の職員の働き方も変える必要があり、企画部門が先頭に立って実施すべきである。それらを社会福祉協議会や自治会に示すことにより、第六次総合計画で表すイメージを共有できるよう仕掛けをしていくことが大切である。
5	めざすまちの未来像	長く住んでいると尾張旭市のイメージは湧いてくるが、市外に住んでいる人が「めざすまちの未来像」を見たときにどういうイメージを持つかが気になる。「幸せ」や「笑顔」は多くの自治体が使っているフレーズであるため、周辺自治体との差別化をどう図っていくのがとても難しいと感じた。市外の方にどう伝えるかという部分を計画に含める必要がある。
6	めざすまちの未来像	「みんなで支えあう」ことの大切さを基本構想の中に含めることにより、協働や共生の羅針盤となるのではないか。
7	めざすまちの未来像	「つむぐ」という言葉が難しい。素案の説明文だけでは理解ができないので、記載内容を工夫する必要がある。

8	めざすまちの未来像	「幸せつむぐ」には、不幸ではないという意味が含まれ、セーフティネットのような意味もあると考えられる。「安心して暮らせる」「困難な状況にあっても暮らしやすい」といった部分を対外的な魅力として伝えても良いのではないか。
9	めざすまちの未来像	これまで大切にしてきた「緑」を大切にしてもらいたい。
10	めざすまちの未来像	「幸せつむぐ」と「笑顔あふれる」が同じような言葉である。
11	まちづくりの基本方針	基本方針の各標題について、行政以外の「市民の皆さん」や「事業者の皆さん」からの市民などに対する応援を含んでいるように感じ取ることができない。市の意向が伝わりづらいため、文章の構成を再考する必要がある。
12	まちづくりの基本方針	「「暮らしやすさ」に「楽しさ」を加えます」とある。高齢者の「楽しさ」のためには、市営バスあさび一号について、東西以外のルートも検討してほしい。また、「楽しさ」につながるようなお出掛け先があると良い。
13	まちづくりの基本方針	「自分らしく」を多様性と捉えると、LGBTや独身でいたいという意思の尊重であると感じる。一方で「「子育てしやすいまち」の魅力を高めます」は家族を想起させる。一見すると相反することが書かれているように捉えられてしまうため、背景やストーリーの説明ができることが大切である。
14	まちづくりの基本方針	「「自分らしく」を応援します」の「応援」について軽く見られないように表現を検討する必要がある。
15	まちづくりの基本方針	「まちづくりの基本方針」の(2)「「自分らしく」を応援します」の「誰もが「自分らしく」いられる暮らし方や働き方に自らチャレンジしたいと思える雰囲気」という部分について、前段にある「個性を認められる」と自らチャレンジしたい雰囲気になるわけではない。
16	基本目標	基本目標が部単位で設定されているため、縦割りのイメージがある。横串を刺して推進すべきである。
17	基本目標5	説明文に「減災」の言葉がないため、追加することを検討してはどうか。
18	基本目標7	「全ての働き手」とあるが、「働き手」といった言葉は馴染まないため、「皆さん」などとしてはどうか。

3 施策別計画に関するもの

重点パッケージ

番号	意見や提案
1	レイアウトによって、各パッケージの捉え方が変わる。より迫力のあるパッケージにするため、レイアウトを工夫してほしい。
2	子育てのしやすさの指標は、「出生率」や希望する子どもの数と実際の子どもの数などを指標とすることも考えられる。そうした場合、国の統計と比較することができる。
3	(4)「「人とのつながり」を大切にします」の重点的に実施する「主な取組」の1-1-5「市民協働による健康づくりの推進」については、「健康づくり」となるため、(1)「「暮らしやすさ」に「楽しさ」を加えます」の重点的に実施する「主な取組」のうち、「暮らしの質の向上」に位置付ける方が良いのではないかと。
4	(4)「「人とのつながり」を大切にします」の重点的に実施する「主な取組」の8-1-2「愛着と誇りの醸成」については、重点パッケージ上では「まちに対する愛着や誇りの形成」の項目にあるため、市民に郷土愛を深めてもらうといった取組と読み取れるが、施策別指針では、「本市の魅力や知名度、愛着や誇りの醸成を図り、定住促進や人口誘導につなげます」としており、市外在住者を対象として含んでいるため、整理が必要である。
5	横断的に取組を進めていく具体的な事業やプロジェクトがあるのであれば、記載してはどうか。 また、重点パッケージの指標が漠然とした指標となっているため、事業やプロジェクトを進める際の連携した事業数など、客観的に測定できる指標としてはどうか。
6	重点パッケージは数値で管理していく必要がないのではないかと。

施策別指針全体

番号	意見や提案
1	ワークショップやアンケートで出てきた尾張旭市の魅力に関することや、各委員から指摘のあったことを計画に反映できると良い。
2	「現状と課題」に対応する「主な取組」の番号を記載した方が分かりやすい。
3	「めざす姿」と「現状と課題」があり、それに対する「取組」の順にレイアウトしたほうが理解しやすくなるのではないかと。
4	「めざす姿」と「現状」のギャップが「課題」となる。「主な取組」が「めざす姿」の次にレイアウトされているため、課題を分析した取組となっているのかが分かりにくく、やることを決めてスタートしているように読めるのではないかと。
5	「現状と課題」は、計画を策定する上で必要な情報であるが、計画書に掲載することで市民に分かりづらくなるのであれば、掲載しないこともあり得る。市役所の各課、各係の人たちには丁寧に説明していくことが必要である。
6	「現状と課題」とあるが、「課題」のみが記載されているものが多いため、「現状」は不要ではないかと。

7	「指標」とあるが、基準値と目標値が設定されているため、「指標指針」としてはどうか。
8	行政が取り組む「主な取組」と市民や地域が取り組む「市民・地域等の取組」がある。「市民・地域等の取組」は、公私協働して取り組んでいかなければいけない分野もある。このため、「主な取組」と「市民・地域等の取組」の関連性が分かるが良い。
9	行政が行う「主な取組」に関する指標はアウトプット、事業実績で評価し、公私協働での取組の指標はアウトカムとすると分かりやすくなるのではないか。
10	市民の取組やそれに対する支援をどうしていくのかを検討する必要がある。
11	「ウェルビーイング」のようなカタカナ言葉は、意味を調べる必要が出てくる。可能な限り使用しない方が良い。
12	尾張旭市の社会福祉協議会やボランティア、NPOなどの活動は活発であり、自治会の活動には特色があるものがある。これらを上手く周知し、その活動に光が当たるようになるとより良いものとなる。
13	文言の統一がされていない点が見られるため、統一すべきである。
14	「まちづくりの基本方針」にある言葉や方向性を「施策別指針」にも浸透させ、言葉にする必要がある。
15	「市民・地域等の取組」に対して応える形で、行政がどのように協力するのか具体的に記載してはどうか。市民などに対し何をしてもらえるのかが分からない。そういったことが分かると活動したいと思っている人に想いが届くのではないか。
16	「市民・地域等の取組」について、参加しやすいものやハードルの低いものも含めて様々な形の参加を促してはどうか。
17	「めざす姿」を達成できたかという指標になっていない。また、「めざす姿」が簡潔過ぎる。現状と同じくらいのボリュームがないと課題が出せないのではないか。
18	「働き手」や「読み手」などの表記を全体を通して修正したほうが良い。
19	これからも市民の意見を聞きながらまちづくりを進めてほしい。
20	市民の取組やそれに対する支援をどうしていくのかを検討する必要がある。
21	各種団体の会員募集などの支援があると良い。
22	若い世代の地域活動への参加を促進できると良い。
23	指標の性質が「推移」となっているものについて、指標として掲載していく必要はないのではないか。
24	指標のうち、児童手当の受給者や就学の支援を受けている児童生徒数など、子どもに関する指標については、子どもの人数が減少していく中での計画となるため、割合で指標を設定してはどうか。

基本目標1 健康でいきいきと暮らすまち

番号	項目	意見や提案
1	1-1	10年間を見据え、生成AIなどに関する記載も必要ではないか。
2	1-1	若い世代の望まない妊娠を心配している。そういった方に対する相談体制の充実も必要ではないか。
3	1-1	「現状と課題」の5つ目に「人材の育成や活動の活性化」とある。健康づくりに関する人材の育成を進めなければ、市民の健康に結びつかない。
4	1-2	「市民・地域等の取組」に「ジェネリック医薬品を使い」とあるが、個人の価値観により選択するものではないか。
5	1-2	他市と比較し、クリニックや地域の医療機関が充実していることは、尾張旭市の良さになるのではないかと思うので、もっと出していいのではないか。
6	1-2	医療費や薬剤費を積極的に削減するというのは、健康という状況を作ることで削減することとなる。市民ができることとして、「安くする」という出し方より、施策1-1健康づくり事業の充実などで出した方がよい。
7	1-2	指標が「陶生病院を利用した延市民数」となっているが、基準値に対して、目標は下げるものか、上げるものか分かりにくい。
8	1-2	シニア世代を対象に様々な検診を実施しているが、一般的な検診のみに止め、希望者が自身で受診する形でもよいのではないか。
9	1-3	「主な取組」に「介護施設などにおける介護ロボットやICTの活用を支援」とあるが、担い手が不足していくため、充実してほしい。
10	1-3	「高齢者の生きがいづくりと社会参加の促進」について、高齢化により、市営バスを利用する方がたくさんいる。高齢者の移動支援は、生活全般を支えており、生きがいに関連するため、今後、重要になる。
11	1-4	障がい者の経済的自立はとても重要である。
12	1-4	指標1-4-2で「障がい者の雇用人数」が指標となっているが、国が掲げている目標は、全体の労働者に対して障がい者の雇用率となっているため、障がい者雇用率を指標とするべきではないか。
13	1-4	指標1-4-4「会議などの開催回数」となっているが、どのような会議か分かるように記載した方がよい。
14	1-4	「主な取組」の1つ目の意思決定の支援や、「市民・地域等の取組」として、後見制度などに関する記載を追加してはどうか。

15	1-4	「現状と課題」の3つ目に支援者を育成するための協力・支援とあるが、福祉の業界は人手が不足している。人材育成をしても就職につながらない状態。若い方などでボランティアをしたいという人はいるが、活躍する場がないため、そういった方のバックアップができると良い。
16	1-4	「市民・地域等の取組」で、「積極的に社会への参画を実施します」や「障がい者の地域交流の機会創出に取り組みます」とあり、素晴らしいことであるが、少しの段差やトイレなどハード面の問題がある。バリアフリー化などの環境の整備が必要ではないか。
17	1-5	めざす姿「互いに支え合い、誰もが安心した暮らしを送っています」を見て安心した。城山町三ツ池周辺は、老夫婦も増えてきており、今後移動販売などがあると良い。
18	1-5	めざす姿「互いに支え合い」とあるが、個人情報関係もあり、隣近所の状況が分からない中で、「支え合う」ことができるのか。まずは、向こう三軒両隣の方を知ることから始めていけると良い。
19	1-5	「市民・地域等の取組」に「校区社会福祉推進協議会に加入し、地域福祉活動に参加」とあるが、若い人は全く加入しない。PTAを校区社会福祉推進協議会に入れている校区もあると聞かため、若い人の加入を後押ししてもらえると良い。
20	1-5	めざす姿が簡単に表現されているがめざす姿を自分事に捉えられる文言にするべきではないか。少しきれいすぎる印象がある。
21	1-5	福祉は、市民が自分事として考えてもらうことが必要である。そのためには、教育の段階から教えていかなければ根付かない。学校で改めて教えなければいけないのではないか。
22	1-5	「市民・地域等の取組」に「地域全体で見守ります」とあるが、具体的な見守り方法の記載がないと難しいのではないか。

基本目標2 こどもがすくすく成長するまち

番号	項目	意見や提案
1	全体	子育てに関して、行政単独ではなく、森林公園などの環境を活かすなど何かと関連付けて魅力を出していくことを検討してはどうか。
2	2-1	仕事の面接に行くと保育園に入ることが決まっているか聞かれ、保育園に入るには仕事が決まっていけないと聞かため、何とかしてほしい。
3	2-1	保育士について、人数の確保も必要だが、人材育成や保育士が安心して保育できる環境の整備が必要である。

4	2-1	保育関係で「安心して暮らせる」という安心感を出すため、情報周知や育児休業制度の普及など、基本目標1に関連する「母子関係の伴走型支援」の在り方を追記してはどうか。
5	2-2	「現状と課題」の2つ目に「核家族化の進展」とあるのを、P13の「核家族化の進行」と表現を合わせるべきではないか。
6	2-2	「市民・地域等の取組」について、実際に担い手となる人材がいるのか疑問に感じた。
7	2-2	核家族の家庭にとって「子育て不安の解消」はとても心強い。短時間の子どもの一時的預かりを充実させてほしい。
8	2-3	ヤングケアラーへの取組としてスクールソーシャルワーカーが大切になるため、記載を追加してはどうか。
9	2-3	ヤングケアラーという言葉が入るだけで重みが変わってくる。そういった家庭に介入することは難しく、今後どんどん増えてくることが予想される。地域共生社会の推進や障がい者福祉など全てが連携した支援が必要となる。
10	2-3	ヤングケアラーの問題など、子ども自身の悩みに対する相談体制を充実する必要がある。
11	2-3	子育て世帯の負担を軽減してほしい。
12	2-3	アンケート結果に「子育て」の言葉が出てくる。非常に大事な分野であるため、力を入れて取り組んでほしい。
13	2-3	18歳まで医療費無料などの市がこれまで進めてきた取組を入れて、それらを充実させていくといったものを追加しても良いのではないか。
14	2-3	指標2-3-2で「児童手当の受給者数」が指標となっているが、国の制度によるものであるため、指標として管理していくことが妥当か再度確認が必要ではないか。

基本目標3 豊かな心と知性を育むまち

番号	項目	意見や提案
1	3-1	「めざす姿」に「豊かな心と健やかな体を育み、確かな学力を育成できています」とあるが、「主な取組」を単純に見ていくと、3-1-1と3-1-2だけが「めざす姿」に関連する取組と感じる。「主な取組」の全てを包含するような「めざす姿」として工夫してどうか。
2	3-1	「施策名」と「めざす姿」、「指標」がちぐはぐなため、修正してはどうか。

3	3-1	一般学級に発達などの障がいのある子がいる場合、1人の先生だけでは、授業が進まないため、補助の先生がいれば助かるのではないか。
4	3-1	「現状と課題」に「食生活などの生活習慣の乱れを改善することのほか」とあるが、食生活が乱れていることが前提となっている。乱れていない家庭もあるため、肯定的な表現としてはどうか。
5	3-1	「指標」は「目標」となるものであるが、3-1-4「学校支援人材の配置人数」は、配置すれば終わる「手段」に近いものであるため、修正してはどうか。
6	3-2	駅前再開発など、市が行う様々なコンペに学生が参加することで、提案が現実になることへの喜びを感じるとともに、近隣だけでなく全国の学生が「まち」を知ることにつながる。
7	3-2	市民同士で情報交換できることは大切だが、公的な相談機関につないでほしい場合もある。地域との連携の中に、発達障がいやアレルギー、不登校などの専門機関を入れてほしい。
8	3-2	「指標」が3-2-1「コミュニティ・スクールにより学校・家庭・地域が連携した活動回数」であるにも関わらず、「主な取組」に具体的な活動内容がないため、修正が必要である。
9	3-3	「主な取組」の3-3-2「生涯学習施設的环境整備」について、基本構想では、ある程度インフラが整ったため、そこを活用する「人」にフォーカスしているという説明があった。当然老朽化には対応するが、どちらかというハードよりソフト事業を記載するべきではないか。特に地域団体の講座が増えていくような取組を推進できると良い。
10	3-3	「主な取組」の3-3-2「生涯学習施設的环境整備」に、「老朽化した施設の今後のあり方を検討する」とあるが、「あり方を検討する」の表現が10年間の計画期間の総合計画には馴染まない。どう対応するのかという次のアクションの方向性を出すことが総合計画の一つの役割ではないか。
11	3-3	「指標」に「公民館の利用者数」がある。利用者が多い公民館の分析や共有、議論をすることで、この「指標」を伸ばしていくことができると思う。
12	3-4	「主な取組」の3-4-1「文化財の保護・継承・保存」について、「保護」となっているが、維持していただくだけでは、市民の愛着や誇りの醸成にならないため、もっと広がっていくような言葉としてはどうか。
13	3-4	「主な取組」の3-4-4「スポーツ活動的环境整備」には、「適切に管理します」とあり、施策3-3の「主な取組」3-3-2「生涯学習施設的环境整備」には、「環境を整備します」とある。管理と

		整備は異なるものであり、体育施設の多くは老朽化しているが、老朽化した施設は「管理」ではなく「整備」ではないか。
14	3-4	3-4-4「スポーツ活動の環境整備」について、ハード整備だけではなく、小中学校の体育館の利活用などをしやすくしてほしい。
15	3-4	3-4-4「スポーツ活動の環境整備」について、体育館は、市外の人利用も多いため、市に来てもらうという視点からも大切となる。「管理」だけではなく「利用促進」を進めてほしい。
16	3-4	文化会館利用者から、本市の文化会館のホールは、使いにくいと聞いたことがある。指定管理制度の導入により使いやすくなった点をPRしてほしい。
17	3-4	小学校の体育館などの一般貸出は、制限が厳しく、予約ができないと聞いたことがあるため、使いやすくしてほしい。
18	3-4	学校関係者以外が施設を利用する状況を開示することで、積極的な利用につながる。
19	3-4	公民館で学んだ方がその知識を教える側になる取組があると良い。教える立場になる機会を積極的に周知してほしい。
20	3-4	有名な選手による教室などがあると、子どもたちに夢を与えられ、尾張旭市のPRにもつながる。

基本目標4 質の高い暮らしを支えるまち

番号	項目	意見や提案
1	全体	「カーボンニュートラル」「コンパクトシティ」などは非常に重要で今後も必要とされるまちづくりの考え方となる。
2	4-1	「めざす姿」に「まちづくりの基本方針」の「楽しさ」を感じることができる言葉を入れると良い。
3	4-1	特徴的な空き家の活用をしていると、尾張旭市を訪れる機会となる。
4	4-1	都市のコンパクト化には、都市機能を拡散させないことや公共交通の充実を含めた移動の円滑化が重要であるため、2つ目の「主な取組」の記述を充実させてほしい。または、「現状と課題」の文言を具体化する方が良い。
5	4-1	コンパクトシティという概念は大きいので、もう少し色々な分野に溶け込ませると良い。
6	4-1	公園を再整備する際に、学生が意見を出せる機会があると良い。
7	4-1	公園に屋根のある座れるところがあると良い。

8	4-1	公園都市としてのブランドの充実を図るため、駅前の再開発において、遊具を設置してはどうか。
9	4-1	既存の公園に対し、遊具の充実などの地域の声を届ける場所を設置してほしい。「魅力ある公園」とは何なのかを市民に聞き、計画に反映してほしい。
10	4-1	旭前の新しい公園には緑が少ないと感じるため、他の場所で緑を補ってほしい。
11	4-1	草木が生い茂っている公園は防犯上良くない。防犯カメラなどを積極的に斡旋してほしい。
12	4-1	水辺の利活用の魅力をSNSなどで発信できると良い。
13	4-1	市内に公園格差があるため、1校区に1つ以上、遊具が多く楽しい公園を作ってほしい。
14	4-2	キックボードやシェアサイクルなどを活用すると良い。
15	4-2	市営バスの積極的な利用方法について、市がもっとPRしてはどうか。
16	4-2	オンデマンド交通はとても良いと思う。もう少し積極的に前面に出していけると良い。
17	4-2	歩道の段差が危ないと感じている。「主な取組」の3つ目「交通基盤を支える道路環境の整備」の中で歩道の整備についても触れてほしい。
18	4-3	「指標」に緑地面積があるので緑地を増やしていく意向がうかがえる。「めざす姿」が「保全」となっているため、豊かな緑を作っていくというイメージを加える必要があるのではないかと。
19	4-3	景観という部分で、田んぼアートやコスモス畑を取組の一つに入れても良い。
20	4-3	矢田川河川敷を魅力的なものにするため、駐車場の整備を検討する必要がある。
21	4-3	矢田川や天神川など、市内で散歩をしようと思うと、その散歩道が道路で分断されており、横断歩道がない箇所がある。散歩道を部分的に見るのではなく全体で考えるとより良いものになるのではないかと。
22	4-3	川辺や山辺にある散歩道は、今後のまちづくりの非常に大きなポイントとなるし、出せる部分であるのでしっかりと書き込む必要がある。
23	4-3	街路樹が切ったままになっている箇所があるが、景観に配慮しながら整備したほうが良いと感じる。

24	4-3	三郷駅の再開発を進める際には、木陰があり、うるおいを感じられる空間を増やしてもらいたい。
25	4-3	「主な取組」の3つ目の「都市型農業の推進」について、農業従事者、後継者の不足、点在している農地の集約が最大の課題となっているため、そこにもう少し踏み込んだ記載としてほしい。
26	4-3	最近では農業に携わりたくて移住をする人が多いと聞く。市民農園の事業は農業のスタートアップとして良い。
27	4-3	小中学校の給食で地域の農産物が提供されていると聞くため、それらを取組に入れてはどうか。
28	4-3	市民の取組に「身の回りのものを木製品に変え」とあるが市民だけでなく行政も積極的にウッドチェンジを図る必要がある。「主な取組」の4つ目の「全国植樹祭の理念継承」に「市の公共施設で木製品を取り入れます」という記載をしても良いのではないかと。
29	4-3	「主な取組」の4つ目の「全国植樹祭の理念継承」の内容が、「現状と課題」と記述のレベルに差が感じられないため、より具体的な取組内容を記載すると市民により分かりやすくなる。
30	4-4	既成市街地への下水道の普及を進めてもらいたい。

基本目標5 人とふれあい安心して暮らすまち

番号	項目	意見や提案
1	5-1	コロナ禍で地域の盆踊りなどがなくなり、これから立て直していく方法に困っている。そういった部分をどのようにしていくかが課題となる。
2	5-1	引っ越してきた若い人たちが自治会に入らないことが多い。地域でのつながりは、災害対応や環境美化などに関係してくるため、今後の検討が必要ではないか。
3	5-1	「主な取組」の5-1-1「地域コミュニティ活動の活性化支援」には、「時代に合わせて活動を見直す」や「負担軽減に努める」を進めながら「活発な活動を継続できるよう支援」とあり、良い内容である。しかし、これに対する「指標」が「自治会・町内会加入世帯数」となっているため、取組の活動を追うことができる指標としたほうが良い。
4	5-2	防災で一番肝心なことは減災である。減災のため、家具の固定を推進することや周知することが必要である。
5	5-3	名古屋市との消防指令センターの共同化について、計画への影響がないか確認が必要だと思う。

6	5-3	消防関係の広域化について、計画に今後どこどうやって共同化していくのかの道しるべがあっても良い。
7	5-3	企業内の自主防災組織などと協定を結び、災害が起きた際に何らかの連携をすることも1つではないか。
8	5-3	市内のコンビニ全てにAEDが設置されているのは、尾張旭市だけであるにも関わらず、その良さが活かされていない。市民が活用できるようにもう少し講習会などを充実してほしい。
9	5-3	地域や各種団体、事業者などにAEDなどの講習を出前講座のような形で実施してほしい。
10	5-4	「幹部交番」を市民の方は認知していないのではないかと思うので、「幹部交番」は、単に「交番」で良いのではないか。

基本目標6 環境にやさしい生活を送るまち

番号	項目	意見や提案
1	6-1	「めざす姿」の主語が「市民や事業者」となっている。この分野は行政が率先して行う必要があるのではないか。
2	6-1	市内の小中学校には冷暖房が設置され、二酸化炭素の排出量が増えているため、学校の屋上に太陽光パネルを設置するなどの取組が必要ではないか。
3	6-1	遮熱フィルムや断熱フィルムを設置することによりエネルギー効率を向上させることができる。
4	6-1	行政が自ら省エネルギー化に積極的に取り組んでいる姿勢を市民に見せることが大切。それにより市民の環境問題への意識が高まる。
5	6-1	「主な取組」の2つ目の「公共施設の省エネルギー化の促進」に「最新の省エネ技術を取り入れ」のような言葉を足しても良い。
6	6-1	基本目標に「よりよい生活環境を将来世代に継承していく」と書かれているので、「主な取組」に環境教育を加えると良い。
7	6-1	「市民・地域等の取組」の地域や団体等の取組の最後に「ウォームビズ」を加える必要がある。
8	6-1	「市民・地域等の取組」の市民の取組の2つ目について、水素や電気などのエコカーもあるため、自動車に頼らないといった表現は、工夫が必要である。
9	6-1	「現状と課題」の1つ目にある国の目標達成に市を挙げて取り組んでいくのであれば「主な取組」の内容では説明が難しい。尾張旭市地球温暖化対策実行計画の区域施策編を策定し取り組んでいく旨を加える必要がある。

10	6-2	ペットは子育て世代や高齢者世帯など、家族同様に大切な存在であるため、ペットが及ぼす課題と必要性の両立を意識した記載になると良い。
11	6-2	「指標」の3つ目が何の修繕件数なのか分からないので修正が必要ではないか。
12	6-3	一般家庭のほか、ごみの排出量が多いのは飲食店などの事業者であるため、事業者でもしっかりと分別されると良い。
13	6-3	デジタル技術の活用によるペーパーレス化もごみの発生抑制につながる。計画書のどこかに記載があると良い。
14	6-3	「主な取組」の1つ目の「たい肥化」については学校給食センターなどでも取り組んでいると思う。子どもたちや市民に発信すると良い。
15	6-3	資源循環型社会の推進のためには、転入者に対してごみの分別を丁寧に伝える必要がある。
16	6-3	ごみの分別などは、一人ひとりのモラルの問題であると思うので、子どもたちへごみの減量に関する教育を積極的にすると良い。
17	6-3	リサイクルセンターの移転に伴って「環境学習施設」がなくなってしまった。環境学習を進めるのであれば、その代替措置を明記した方が良い。
18	6-3	リサイクルセンターの移転により、「リユース」の面が後退したと感じている。行政でできないのであれば、民間のリユース会社を広報誌で紹介しても良いのではないかとと思う。
19	6-3	「主な取組」に「リサイクル」や「リユース」という言葉が出てこないことに違和感があるので、掲載を検討してほしい。

基本目標7 笑顔と活力があふれるまち

番号	項目	意見や提案
1	7-1	7-1-3「創業者への支援」について、対象者が明確ではないため、具体的に書くと良い。
2	7-1	モノづくりだけが企業ではないため、ソフトウェアの開発などを行う、場所に依存しない企業を誘致することを考えると幅が広がるのではないかと。見方によっては、空き家対策にもつながる。
3	7-1	大企業の誘致より、地元の人たちがみんなで支え合って商工会を盛り上げていくことが必要ではないか。
4	7-1	瀬戸市では、若い人が起業するといった話を聞くため、尾張旭市はどういった方に起業支援をしていくのかを考えていく必要がある。

5	7-1	尾張旭市はアーケードのある商店街がないため、もう少し民間活用をしっかりとしながら起業支援をしていく必要がある。
6	7-1	名古屋市内でも、地元商店の閉店により買い物に行く場所がなくなってしまったといった問題が出てきている。計画全体を見ても買い物難民に関する記述がないため、記述の追加の検討が必要ではないか。
7	7-1	既存事業者の事業承継が「主な取組」に入っているのか確認が必要である。
8	7-2	働く人を確認することが必要。市内の事業所で市民が働くことが理想。中学校の職場体験などのように、もっと地元企業と一緒にあって、市内企業を知ってもらう機会を増やしていくことが必要である。
9	7-2	地元への就職を促進するためには、本人に限らず周りの方にも本市の企業を知ってもらう必要がある。
10	7-2	市内の大きな企業で職場見学などができると良い。
11	7-2	65歳以上の男性の高齢者で、就労が終わったところから4人に1人がうつ病を発症しているため、外に連れ出すことを目的とした就労支援をハローワークと連携して実施し、老後を楽しく、生きがいを持って安心して生活できる環境ができると良い。
12	7-2	働きながら新しいスキルを身に付けるリスキリングに関する支援を「指標」として設定してはどうか。資格の取得や外国人の日本語研修などが該当する。
13	7-3	市が行うお祭りだけではなく、地域のお祭りなどの催しも大切にする視点が必要ではないか。
14	7-3	インバウンドが強調されているが近隣市町から来てもらうという視点も大切である。
15	7-3	国内の観光客が瀬戸市などに行く際に、どのように尾張旭市にも立ち寄ってもらうかが大切ではないか。
16	7-3	尾張旭市が紅茶を推していくのであれば、子どもたちに紅茶を知ってもらうため、学校で紅茶の入れ方や作法についての授業を取り入れてはどうか。
17	7-3	イチジクのおいしさを子どもに分かってもらうため、イチジクを口にしておいしさを感じてもらうことが大切。小さいころから教育の一環として取り入れると良い。
18	7-3	学校生活で紅茶やイチジクに触れる機会を作ることで、郷土愛などにつながるため、位置付けを再検討してほしい。
19	7-4	「指標」に「審議会などにおける女性の割合」とあるが、「女性の割合」とすること自体が、ジェンダーの認識がないのではないか。今はジェンダー平等が当たり前になっている。男女関係なく社会進出を

		進めるという考え方であれば、男女の比率の変化を指標として取得してはどうか。
20	7-4	最近入社した社員の多くが外国籍である。地域の連携といった部分で、そういった民間企業の社員が日本語教室の講師を行うと4、5か国語に対応できる。

基本目標8 未来につながる行政経営

番号	項目	意見や提案
1	8-1	「指標」の「市民からの意見数」は、何をどう捉えたら市民の意見なのか分かりにくいため、詳しく記載してはどうか。
2	8-1	「主な取組」に「広聴機会の充実」とあるが、「広聴の機会」とは具体的に何を指すのか「広聴」という言葉が市民に分かりづらいのではないか。
3	8-1	シティプロモーションでは、市内の方への情報発信と市外の方への情報発信のバランスが大切である。
4	8-1	広報誌が全世帯に配られており、掲載されているイベントに小さい子どもから大人まで参加している。そういったところから愛着が醸成される。皆さんが集まりコミュニケーションを取るきっかけとなるため、広報誌は重要である。
5	8-1	様々な媒体を活用した情報発信が重要。目的や趣旨などにあったツールを上手く使うことが必要である。
6	8-2	「現状と課題」、「主な取組」の2つ目について、デジタル社会の実現をめざしていることを、「政府」や「国」が進めているからと表現されているため、市として推進する目的を記載してはどうか。
7	8-2	市役所の業務をデジタル化し、職員一人当たりの生産性を高めることで市民により良い行政サービスの提供が可能となるのではないか。
8	8-2	デジタル化やAI化は、市民サービスの向上と市役所内部の事務の効率化の両方を意識していくことが必要である。